

# 多様性社会で働く

なりたいたいものになれる時代。持っている個性を生かしながら働いている方々を紹介します。

## システムエンジニア

システムエンジニア

### SE女子は平常心！



すずき ゆきな  
鈴木 志奈さん

鈴木志奈さんは、入社4年のシステムエンジニア（以下SE）です。大学では外国語学部を置き、パソコンに関して詳しい勉強はしていません。ただ、パソコンをいじるのは好きでした。

そんな鈴木さんがSEという職種に初めて出会ったのは、就活の最中でした。「当時はまだやりたいことが分からず、色々な会社説明会に参加していました。そんな中で、一番興味を持ったのがSEでした」。

システム構築の依頼は多種多様な業種から来るため、色々な仕事に興味を持っていた鈴木さんにとって、とても魅力的に映りました。ま



た、一つのこと集中する性格にも合っていました。「会社から、3か月の研修で技術を一から教えるので大丈夫と言われ、入社を決めました」。仕事を始めてからは、「仕事をする上で女性だから不利だと思ふことはありません。逆に、女性だからこそその気づきがあるのかもしれない。ただ、技術に関して分らないことを男性社員に聞く時に、相手のタイミングを考えて声をかけるのが難しいです。設計やプログラミングなどのSEとしての技術を磨き、早く独り立ちしたいです」と、鈴木さんは語っています。

一般的に、どんな職業でも一人前になるには時間がかかります。そんな中、女性は結婚や出産を機に仕事を辞めてしまう可能性が依然としてあります。会社としては、一人前になつた頃に社員を放手することになるので、女性の採用を敬遠するところもあります。

「わが社では、産休や退職後の復帰に力を入れていますので、女性が途中で辞めてしまおうという理由から、女性SEを雇わない、ということはありません。むしろ、お客様との会話を重ねながらプログラムを構築していくため、女性の感性が生きることも多いと考えています」と上司の渋谷健介さん。

今回、エンジニア系の仕事に就く女性は、なかなか見つけられませんでした。しかし、SEの職業に就く

### 職人の世界で生きるクロス屋女子

## クロス職人



しもやま えみ  
下山 絵美さん

下山絵美さんは、クロス職人になって10年。高校を卒業して7年間は美容関係の仕事をしていましたが、転職して現在の仕事に就きました。人間関係で悩んでいる時、家業であるクロス職人の仕事に就こうと思つたのが転職のきっかけです。

「クロス職人になることを父に告げたときは、『戦力にならなければだめだ』と言われました。厳しい兄からは『目で見て覚えろ』と言われ腕を磨こうと必死になりました。クロス職人の仕事は、家の壁紙を貼ることで、冷暖房が完備される前に行う作業のため、夏の現場は暑く、冬は寒いのです」。

職人の世界はまだまだ女性には厳しいのが現状。「女なんてだめだ」とい



性専用トイレが用意されている時もある。女性が進出しやすくなっているのかもしれない」と、女性の活躍を期待する声も聞きました。

下山さんは仕事をしていく上で大切にしていることがあります。一つ目は、「まあいつかはだめ。お客様に対して失礼だからです。できないならできないなりに努力をしていくことが大事」。これは父からの言葉。二つ目は、「女であることは捨てたくない」。だから毎日化粧をし、服も作業着ではない服を着て仕事をする。職人だからといって、女をやめることにはならないのです。

男性中心の社会で女性が仕事をし

## モデル



イシヅカ ユウさん

中性的な雰囲気モデルとして様々な服を着こなすイシヅカユウさんは、LGBT当事者であり、それをあえて自分の持ち味としてカメラの前に立っている。

中学時代は性別違和への理解が得られず不登校気味に。中学3年生の



女性は、意外にたくさんいました。案外、女性に向く仕事なのかもしれません。SEは、今後も幅広い分野が必要とされる職種。女性の進出が、ますます期待されます。

テレビ静岡システムクリエイティブ

ERPソリューション部

趣味 ライブ観賞

(取材：永島京子)

時、学生服を着るのが嫌で体操服で登校を始めた。その後、周りの理解と支援者の協力があって、女性として高校服飾の専門学校へ通った。「高校・専門学校時代は、先生や友人に知られないようにとがんばっていました。女性として自然に振る舞えるように意識して生活していました」とイシヅカさん。「身長の高い女性」としてモデルを頼まれたことがきっかけで、モデルという職業に出合った。20歳の頃、LGBTの支援団体Ri-bitが企画したLGBT成人式に出席、テレビの取材を受けたことで高校・専門学校時代の同級生にカミングアウトすることになった。「テレビで放送される前に友人たちに性同一性障害のことを伝えなければならなくなり、これが機会になって気持ち的に吹っ切れ、隠すのをやめました」

感じることもあったが、どこにもいないモデルとして自分の道を切り開いてきた。「すんなり生きるところからはずれ、自分の中の違和感を強みに変え、今は、回りの道の中です。生物学的遺伝子を残せないのなら、文化的遺伝子を残そう」と、モデルの仕事に取り組み。「美しいもの、デザイナー、カメラマン、美容師さんなどプロの仕事の間近で見ることが出来る仕事です。それぞれが持つ才能を結集させ、最高のものを作る。一緒に仕事をしたら、やめられない魅力があります」



(取材：國井良子)

知ってもらおうことで、LGBT当事者として肯定される人が増えるといいなあと思っています」

にこやかに笑うイシヅカさんにカメラを向けると、視線があつという間に変わる。モデルという仕事を垣間見た気がした。

浜松市出身、フリーランスのモデルとして活動中

うような男性中心の意識が残っています。そのたびに彼女は「技術では負けない！」という強い意識を持って仕事をこなしています。男だらけの世界に女性が飛び込むことは大変です。トイレは男性と同じトイレを使うため、なかなか慣れません。トイレトイレパーがなかったりする時もあります。男性の仕事、という概念によって女性が働きにくい環境になっているのです。「それでも最近では、現場に女

ていくのは大変です。しかし下山さんは「この仕事が好きだから続けていきたい。言われても気にせず腕を磨いていきたい。そうすれば結果がついてくるから」と明るく言います。女の仕事、男の仕事と区切りをつけてしまいうのではなく、それぞれが自分の能力を磨けばいいのです。そうすれば好きなことを男女関係なく目指せる社会が訪れるのかもしれない。

(取材：小長谷倅子)

# 性別を超え、誰もが生きやすい社会に！ 交流の場 カフェ「レインバル」を経営

BiBi(仮名)さんとパートナーの薫(仮名)さん



常盤公園の緑に真っ赤なシェード。「レインバル」の文字がひと際映える。甘い焼き菓子の香りが漂う店内には、赤、橙、黄、緑、青、紫のレインボーフラッグをつけた真っ白な冷蔵庫。ここは、BiBiさんとパートナーの薫さんが開くカフェ「レインバル」。

赤は生命、橙は癒し、黄は太陽、緑は自然、青は調和、紫は精神を表すレインボーフラッグは、LGBTの社会的運動を象徴する旗として、人々に認知されはじめています。オープンから1年半。LGBTの人も、そうでない人も交流できる場として、カフェ「レインバル」もようやく街の中に溶け込んできた。

**偏見って、誰の心にもある。だからLGBTへの理解が進むといい！**

「私たちの朝の日課は、ジョギング。一緒に走ったり、手をつないで歩いたりしていると、すれ違った相手が必ず振り返ります。20代も50代も、年代に関係なく(笑)。やつぱり、『普通』に見えない。気になるんでしょうね。この間は、自転車ですれ違ったおばさんが、わざわざ戻ってきて『あなたたち、どういう関係？ ああ、そういう関係、なーんだ』と言って、去って行きました。また、お店に入ってきた40代ぐらいの女性は、マジマジと私たちを眺めながら『私、全然、偏見ないからね。6色の旗って、そういう意味なんだ』。このような言葉を投げかけられるのは、日常茶飯事です」と、薫さんは笑う。

ある日、インターネットを見たという女子高生との二人連れがやって来た。「今まで誰にも言えなかった。こういう場所があって、BiBiさんたちに話を聞いてもらって、本当に良かった」と、帰って行った。

LGBTの当事者同士の理解は進んだ。また、友人もごく自然に距離を保ちつつ、二人のことを受け止めてくれている。しかし、身内の理解はなかなか進まないし、薫さん。

それまで、普通に男性と付き合ってきた薫さん。BiBiさんとの出会いは、7年半前に遡る。最初から「男性と付き合うというスタートではなかった」と振り返る。しかし、真剣に向きあい、理解し合える無二の相手として、一緒にいようと決めた時、改めて社会に根強い

偏見が残っていることを知る。

「つき合い始めた頃、『ただ好きという気持ちだけでは、やっていけない』とBiBiに言われました。私の兄弟は、LGBTには一定の理解を示すものの、家族となると、別の感情が入るのでしょ。『ちゃんと結婚をして子どもを産むのが、母親への恩返しだ』と言われ、まだ理解を得られてはいません」

自分たちの選択に間違いはなかったという自信と同時に、BiBiさんの言葉の意味の深さに気づけなかったのは、自分自身、子どもだったと話す。

BiBiさんの家族は、選択は本人に任せてくれるものの、「全てを受容するよ」という発信はない。

**気づきは、幼少期。「自分は自分」という考えにシフト**

BiBiさんは、生まれながらの身体的性別と異なる性で生きるトランスジェンダー。女として育てられてきたので、「女として生きる」ことに疑問はなかったと言う。ただ、幼少期から、姉のお下がりの赤やピンクのスカートをはくことが嫌だった。中学、高校になるにつれ、いつになったら自分はお化粧に興味を持ち、男の人を好きになれるのか、思い



編集員薫科が  
ママ目線でチョイス

## あざれあ図書室にある おすすめの本を紹介します!



### 『おんぶはこりごり』

(アンソニー・ブラウン作、平凡社 2005年)

家族に家事や育児を押しつけて、自分は仕事だけしている「ふたさん」はいませんか? 旧来の性別による役割分担の不公平を笑い飛ばし、家庭における男女共同参画を考えさせられる作品。親子で楽しめる絵本です。



### 『ママがおうちにかえってくる!』

(トメク・ボガツキ絵、ケイト・バンクス文、講談社 2004年)

ママが外でお仕事、パパはお家で家事育児。一見新しいテーマだが、実は古典的な役割分担を入れ替えただけ。この毎日が続いたら、パパが疲れて「おんぶはこりごり」ってなるかも?!



### 『もっと知りたい!話したい!』

#### セクシュアルマイノリティ①

(日高 庸晴作、汐文社 2015年)

セクシャルマイノリティについてイラストや当事者の声を前向きに分かりやすく紹介しています。当事者だけでなくその周囲にいる私たちすべての人に、全3巻セットで読んでほしい入門書。

## 利用案内

貸出:図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)

\*貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる身分証明書をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。

開室時間:平日9:00~18:00、土日祝9:00~17:00

休室日:第1・3・5日曜日、図書整理日

TEL:054-255-8763 FAX:054-255-8759

## バックナンバーのご案内

「ねっとわあく」のバックナンバーは、静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で電子BOOKまたはPDFデータで閲覧できます。冊子送付希望の方は、NPO法人あざれあ交流会議へお問合せください。在庫がない号もあります。ご了承ください。

TEL:054-250-8147 (NPO法人あざれあ交流会議)

「あざれあナビ」<http://www.azarea-navi.jp/>



静岡県男女共同参画ポータルサイト

あざれあナビ



富国育徳の理想郷—しずおか



Shizuoka Prefecture

# ねっとわあく

2016/10/25 Vol.67

「ねっとわあく」は年1~2回発行します。県民生活センター、県内の男女共同参画センター、市町役場、公民館などの公共施設で配布しています。会社や友人にもぜひ回覧してください。

発行日/平成28年10月25日

企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085

編集長/國井良子

編集員/小長谷倅子/齋藤典子/高柳溪一/永島京子/薫科可奈

表紙モデル/イシツカユウ イラスト/梅田智江

印刷/星光社印刷株式会社

## 編集後記



写真 後列左から 小長谷倅子 高柳溪一 永島京子

前列左から 齋藤典子 國井良子 薫科可奈

●米作り2年目、「ねっとわあく」参加3年目。似ているのは、それまでのものを引き継ぎながらも毎回種から育てるところ。周りの人の助けがなければ収穫まで辿り着けないところ。そして食べてくれる人、読んでくれる人がいるから励みになるところ。

(編集長 國井良子)

●今回初めて参加させて頂きました。雑誌(今号)を作っている身ですが、編集員の皆様の意見を聞きながら勉強させてもらっています。これからも頑張っていきたいです。(小長谷倅子)

●文化人類学者・染谷臣道先生と絹代島田市市長夫妻にインタビューしたのは、7月下旬。インドネシアを研究されてきた先生と絹代さんの「奮闘記」を終始、笑いの中でうかがった。それから2週間後にお別れするとは、思いもしなかった。私の中で学問に真摯に向き合われた先生の教えは大きい。(齋藤典子)

●縁あって編集員の一員に加えていただき、初めての号を迎えます。考える、書くことの大変さを本当に感じた毎日でしたが、「男女共同参画を伝えたい!」という初心で突っ走ることができたと思っています。出会えた皆さんに本当に感謝です。

(高柳溪一)

●思うことは人それぞれ違うから、何が正しくて、何がいいのかなんてわからない。これがいいと自分が思ったら、その信念を貫くしかない。そう私は生きている、はずが、...。(永島京子)

●色んな方に勧められた「ねっとわあく」編集員のお仕事は学びが多くて超刺激的! 思いがけず染谷絹代さんにも再会でき、そのお話しは育児家事仕事市民活動フルスロットルの私にガガーン☆と響いた。本誌が多くの方に読んでもらえますように。

(薫科可奈)